

全国高校駅伝

初舞台で思いっとなぐ

田辺工業男子 健闘たたえ飛躍誓う



競技終了後、応援に駆け付けた人たちにあいさつする田辺工業主将の都築勇貴君(23日、京都市内で)

全国高校駅伝(23日、京都市)に初出場した田辺工業男子。2時間9分4秒を記録し、27位だった。目標の20位以内で2時間8分切りは達成できなかったが、メンバーは互いの健闘をたたえ、来年の飛躍を誓った。

区間の距離が10キロと最も長いエース区間の1区を走った野村優作君(3年)はスタート直後に飛び出し、先頭で競技場を出た。5キロ近くまで先頭集団に食らいつき、その後も粘って20位。「積極的な走り」ができた。上り坂で苦しくなって先頭から離されたけど、その後も粘ることができた」と手応えを語った。

野村君からたすきを受け取った2区の井瀬翔太君(2年)は「苦しかったけど、諦めずに走りきることができた。来年も1回全国大会に出場できるように僕たちが力をつけたい」。

世界レベルの速さの外国人選手活躍が目立った3区を走った主将の都築勇貴君(3

14位と奮闘。外国人選手と競り合いながら「頼むぞ」と4区の重石卓哉君にたすきを託した。

重石君は、同級生の野村君、都築君と一緒にチームを支えた3年生。「3人の集団で競り合いながら自分の走りをする」ことができた。区間順位が良かった選手や悪かった選手もいたけど、「一人一人が頑張った」と振り返った。

5区の中山友哉君(2年)は「初めての全国大会で緊張したけど、応援が力になって頑張ってる」ことができた」と、たすきをつないだ。

6区の井瀬翔太君(2年)は区間22位と健闘し、順位を一つ上げた。「前の人に追い付こうという気持ちで走った。チームの目標は達成できな

ったけど、僕たち2年生が力をつけて来年入ってくる1年生とまた全国出場を目指したい」と前を向いた。

7区で副主将の水井翔哉君(2年)は、27位でゴール。「全員の思いをこらさず、自分も走った。抜かされても自分のペースを意識して粘った。今回の反省をこれからの練習に生かし、来年もこの場所を走りたい」と話した。

競技終了後、競技場近くに駅伝メンバーが集まり、応援に駆け付けた人たちに都築君があいさつ。「目標の達成はできなかったが、けがなどなく無事に終わることができた。2年生には来年また頑張ってもらいたい」と後輩に思いを託した。

田辺工業陸上競技部後援会

長の内野一心さん(44)は「全国の強豪相手に力強く走ってくれたことは誇りに思う。今日のレースを見た中学生が来年度入部してくれると思う。来年以降も全国大会に出場してほしい」と期待を込めた。

◇ 田辺工業の各区間の記録は次の通り。かっこ内は区間順位。

1区(10キロ)	30分27秒(20位)
2区(3キロ)	9分7秒(46位)
3区(8・1075キロ)	24分26秒(14位)
4区(8・0875キロ)	24分50秒(33位)
5区(3キロ)	9分34秒(42位)
6区(5キロ)	15分15秒(22位)
7区(5キロ)	15分25秒(34位)